

『第13回 関西がん治療と妊孕性温存の勉強会』のご報告

日ごとに寒さが身にしみる時節となってまいりました。

2022年10月23日にIVF大阪クリニックで開催しました『第13回 関西がん治療と妊孕性温存の勉強会』のご報告です。COVID-19への十分な感染対策を行いながら現地開催いたしました。

今回は越田クリニックの網和美先生から『生殖補助医療による妊孕性温存の実際』、獨協医科大学埼玉医療センター・泌尿器科の岩端威之先生から『男性がん患者・患児に対する妊孕性温存と心理的サポート』、IVF大阪クリニックの小松原千暁看護部長から『不妊治療の保険適用と妊孕性温存治療費助成について』について講演をしていただきました。

男性悪性腫瘍の治療では、抗がん剤治療により造精機能低下や精子DNAが損傷する可能性があります。また、放射線治療の線量が大きい場合は無精子症が遷延する可能性があり、妊孕性温存のタイミングは化学療法・放射線療法施行前、困難な場合は化学療法2クール目の前に精子凍結保存が推奨されます。そのほか病状や年齢によってはTESE（精巣内精子採取術）での温存治療を考慮する必要があります。

本講演では、男性がん患者への妊孕性温存治療の実際や第二次性徴以前の患児（男児）の妊孕性温存治療の心理的支援の必要性と対応、工夫についてなどを学び、その大切さや看護支援についても考えさせられました。

参加者のアンケートでは、講義内容に関して「とても内容も分かりやすく、資料も見やすく勉強になった」「男性患者の場合関わる時間が少ないため、今後、より丁寧なサポートにつながりそうな情報が多く、とてもためになった」「心理面に関するアプローチや文献などを示して頂いたので参考になった」「保険適用や助成制度は知っていたが、詳細を知らなかったため参考になった」など今後の実践に役立つ内容だったという感想でした。

症例検討に関して「未成年の患者に対する配慮や関わり方を知ることができた」「他施設の取り組みや、がん病院、生殖病院両方の取り組みについて聞く事ができた」など、実際に参加者が交流することで共有できた情報もありました。また、現場で困っている課題も話し合われ、今後の勉強会に取り入れる企画として検討していきたいと思います。今回の勉強会も「今後の看護実践の参考になった」と多くの参加者から回答いただき、顔を合わせて交流することで更なる連携に繋がる有意義な時間だったと思われれます。

今後も実践につながる勉強会を継続していきたいと思います。

関西がん治療と妊孕性温存の勉強会
事務局 下西祥子